

院内明るく 心和やかに

川崎医療福祉大(倉敷市松島)の学生が制作した院内アート作品が、平病院(和気町尺所)の患者らの心を和ませている。同町内の自然や町花・フジなどをモチーフにした温かみのある3作品。制作を依頼した平病院は「院内がパッと明るくなった。リハビリに取り組む入院患者さんたちの励みにもなっている」と喜んでいる。(岡亮佑)

フジ、町の自然モチーフ

「キャンバス」は3カ所。従来の多い1階エレベーター乗降口の壁(高さ2・5㍎、幅3㍎)に「あせらずぼちぼち行こう!」などのメッセージが貼り付けられている。

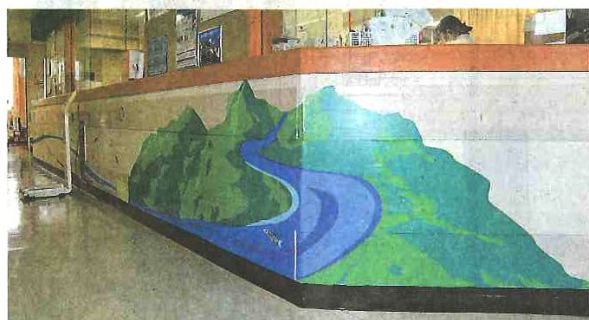
3階ナースステーション前の壁(高さ0・7㍎、幅12㍎)は和気の人々と吉井川の風景。3階病室扉(高さ1・5㍎、幅2



病室扉に施された壁面アート



1階エレベーター乗降口にお目見えしたフジの花



ナースステーション前に描き出された和気の山河

大学を通じて、依頼を受けた医療福祉デザイン学科4年の栗原玲音さん(22)が卒業制作として引き受けた。昨年11月から数度、仲間と病院を訪れ、患者や病院職員らの協力も得ながら完成させた。

壁面アートは入院患者だけでなく、通院患者や職員からの評判も上々。平病院は「他の壁面もアートで彩ることを検討したい」としている。